

富士見市文化芸術振興委員会第3回会議録

日時	平成25年10月8日(火) 18:30～20:30
会場	富士見市立鶴瀬公民館 第3集会室
出席者 (欠席者)	<p>■委員(順不同・敬称略) 加藤 健司、秋元 節子、氣賀澤 明子、小倉 洋一、吉川 節男 小塚 茂、増岡 昭、稲村 松美、富田 實、野村 東央留</p> <p>■ファシリテーター(順不同・敬称略) 中村 美帆、李 知映、長嶋由紀子(東京大学大学院)</p> <p>■事務局 市川地域文化振興課長、中嶋副課長、大下主事補</p> <p>《欠席者》</p> <p>■委員(順不同・敬称略) 吉田 英穂、山崎 咲子、佐藤 公誠、羽石 裕子</p>
会議内容	<p><第3回文化芸術振興委員会></p> <p>1 開 会 地域文化振興課 中嶋副課長</p> <p>2 あいさつ 加藤委員長</p> <p>3 議 事 進行:委員長</p> <p>(1)文化芸術ワークショップについて 9月19日(木)、9月22日(日)、9月26日(木)に行われた文化芸術ワークショップについて、事務局よりまとめを配布し、報告を行った。</p> <p>(2)今後の流れについて 今後の流れについて事務局より説明をおこなった。 作業部会の中で定めた5つの施策の柱をもとに、事務局が素案を作成し、ファシリテーターに意見をいただき修正して、11月7日(木)の文化芸術振興委員会にて案を提示する。委員に確認、修正していただき、12月または1月には最終案を提示する。1月または2月の政策会議を経て、3月(予定 3月18日(火)～4月17日(木))にパブリックコメントを実施。4月には、パブリックコメントの報告とアクションプランの策定にむけて文化芸術振興委員会を開催し、5月に文化芸術振興基本計画を公表する。 また、3月1日(土)に、文化芸術講演会を開催するので、委員に参加してほしい旨を伝えた。</p>

質問

委員) 庁内委員会の会議内容について伺いたい。

事務) 4回開催され、関係課の課長、所長が委員を務める。会議内容等は、この会議の中でも、お知らせしていきたい。

(3) 作業部会の開催について

各作業部会に分かれ、ワークショップ等の意見を取り入れ、各テーマごとの小柱の案を確認した。

作業部会1

テーマ: 文化芸術の振興で感性や創造性を高め、豊かな人と地域を育てるまちづくりをすすめます。

部会長: 野村 東央留委員

出席: 野村 東央留委員、秋元 節子委員

ファシリテーター: 中村 美帆氏(東京大学大学院)

小柱(案) ※は施策のキーワード

① つながりで活性化する文化芸術とまちづくり

※ 農業、商業、みんなでつながり盛り上がる

※ 市内3駅を文化芸術のミニ拠点として活用する(ミニギャラリー、パフォーマンススペース、地域の文化芸術情報コーナー)

※ 人通りのいい場所の遊休スペースを文化芸術の場に活用する(例 駅前商店街空店舗)

※ 人、特に若者が集まる商業施設(ららぽーと)と提携、活用する

※ 世代間のつながり、交流を促すきっかけ、仕組みづくり

※ 世代を超えて文化芸術を共有できる環境づくり

② キラリを中心に文化芸術を発信する

※ キラリでいいものをつくって発信する

※ 市内外に発信

※ 学校等への出前(アウトリーチ)

※ 優れた文化芸術に触れる機会の充実

※ 駅からキラリに向かう道も文化芸術を楽しめる空間にする(ららぽーとの提携)

③ 子どもも大人も、市民の創造活動の促進

※ 創造＝表現と鑑賞

※やる人が増える、もっとやりたくなる

※次の機会につながる、発展性のある活動

※活動しやすくするための環境整備

(技術的な防音、予約システムの利便性／文化芸術活動への市民の理解促進(市が文化芸術をバックアップしているPR、気持ちのゆとり、「うるさい」ではなく「いいね」)

※文化芸術のおもしろさを伝えるきっかけづくり

(きっかけが日常生活の様々なところにある)

※ 富士見市で文化芸術に親しんで子どもが育ち、アマチュアの裾野の厚みと広がりからプロのアーティストも育ち、そうして育った人々が将来また富士見市に住みたいようなまちづくりを目指す

(アーティストが育つようなまち)

④「まちなか」で文化芸術を感じられる場を増やす

※キラリに向かう駅からの途を楽しめる仕掛けをつくる

(ベンチ、フラッグ、MAP、パブリックアート)

※道路端、公共施設、生活の中に鑑賞・発表の場が多くある

※関連する都市計画に「文化芸術の機会を増やす」という視点を盛り込む

※まちづくり(ハード面)に文化芸術の視点を盛り込む

※豊かな自然環境と調和した景観づくりに配慮する

※「まちなか」の空間を楽しめるまちづくりをめざす

⑤地域の文化資源の活用と継承

※いまあるものを大事にする

※自然、歴史、伝統、風土、地域ごとの特性を大事にする

※文化財を活かす、アーティストバンク(プロ、アマ)等

(*作ろうと言うよりうまく仕組みを使おうというニュアンス)

※既にある行事、仕組みを活用する

作業部会2

テーマ:文化芸術の振興で仲間づくりを進め、生きがいややりがいを創るまちづくりをすすめます。

部会長:小塚 茂委員

出席:小塚 茂委員、増岡 昭委員、小倉 洋一委員、吉川 節男委員

ファシリテーター:李 知映氏(東京大学大学院)

小柱(案) ※は施策のキーワード

①参加・発表の機会の充実

※施設(展示)の場、情報、交通

※伝承・保存の機会の確保

※通年展示、巡回展示

※参加できる機会をつくる

②多様な分野との連携

※公共機関同士、民間(他業種、商店街)、学校

※誰でも・いつでも・どこでも触れる機会

③交流センターや公民館などを活かした地域での文化芸術活動の充実

※ 公民館活動の位置づけ

④生涯学習としての文化芸術活動の充実

※市民協働の推進

※市民アーティストバンク(仕組み)の充実

⑤小学校・中学校での文化芸術活動の推進

※ コミュニティとして発足

作業部会3

テーマ:文化芸術の振興で心のやすらぎをうみ、日常のまなざしを変えることができるまちづくりをすすめます。

部会長:加藤 健司委員

出席:加藤 健司委員、稲村 松美委員、氣賀澤 明子委員、
富田 寛委員

ファシリテーター:長嶋 由紀子 氏(東京大学大学院)

小柱(案) ※は施策のキーワード

①情報ネットワーク・広報の充実

※地域内の情報の共有で参加の輪を広げる

※地域内で文化芸術情報の存在感を高める

※駅などの公共空間での掲示(企業に認知を求める=行政の役割)

※広報、看板、掲示板の活用(文化芸術情報スペースの確保)

②文化芸術活動を長く続けられる条件づくり

※利用料減等の費用の問題への配慮

※場所の問題への配慮

※人のつながりを大事にする

③芸術のまちとして発信し、文化芸術を通して誇りをもてる富士見市をつくる

※芸術の街としての富士見市の知名度を高める

※市民の誇り(シビック・プライド)

④日常生活の中の文化芸術

※日常生活空間に文化芸術に触れて気づく機会を設ける

(駅、ららぽーとなど)

※駅コンの復活

※野外コンサート

※野外アート

⑤鑑賞機会の充実

※キラリでのコンサート等の充実

※市民の観賞を支援する活動

4 作業部会の報告

作業部会で話した内容について、ファシリテーターより報告を行った。

5 その他

次回会議 平成25年11月7日(木) 18時30分～

鶴瀬公民館第3集会室

6 閉 会 秋元副委員長

第3回富士見市文化芸術振興委員会・第3回作業部会 次第

日時 平成25年10月8日(火)

18時30分～

場所 鶴瀬公民館第3集会室 他

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

(1) 文化芸術ワークショップについて

(2) 今後の流れについて

(3) 作業部会の開催について

4 作業部会の報告

5 その他

次回会議 平成25年11月7日(木) 18時30分～

鶴瀬公民館第3集会室

6 閉 会